

新編

本草

卷五

新編本草校註

| |
|------|
| 特別 |
| 14 |
| 1919 |
| 699 |



元年乙巳、年ヲ大化ト号セラル本朝年号ノ始メナリ、六年
 庚戌長州ヨリ白雉ヲ獻スルニヨリテ白雉ト改ラル、五年ニ畢
 ルソノ次齊明、元智ノニ帝ハ年號ヲ建ラレズソノ次天武
 天皇ノ時ニ白鳳朱鳥ノ号アリ、持統天皇ノ并又年号ナシ
 天武天皇ノ時ニ五年辛酉丑對馬金ヲ貢スルニ因テ三月甲午
 元ノ庚ニ大室ト云ヒヨリ以後歴代相續シテ即位並ニ祥瑞災
 變ニハ必改メラルナリ

○本朝ニハ辛酉甲子ノ年必改元アリテ是ヲ革命令革命ト云又
 一郡一元ト云コトアリテ六甲辛酉年ニ元ト云成ニハシマリテ辛酉
 ニオハル是ヲ二十一アハセタルヲ一郡ト云郡ハ辛酉ニハシマリ
 ラ康申ニオハルコノ一郡一元トイコト云

○神武天皇ノ元年辛酉ヨリ齊明天皇六年庚申マテ千三百二十年
 コレヲ一郡ト云、天皇二年壬戌ヨリ推古天皇九年辛酉マテ千三百
 六十年是ヲ北一元ト云、三年教回カテケルケハ郡首辛酉ノ年
 ヲリ一元六十年ヲ降テコレヲ廿五フルナリ

三朝ニ統年
 本朝之制 用夏正
 本朝國史ニ記スル年月ミナ寅
 月ヲ正トス

曆法ノ事

○事物紀元ヲ考フルニ大皇神農黃帝ナトノ時ニハレノニ曆ヲ作ラ
 ルトイヘリ又呂氏春秋ニ古ヘ容成ト云人曆ヲ作ルトイヘリ世本
 ニ是ハ黃帝ノ時ノトイヘリ書經ニ堯舜ノ時羲和ニ命レテ初
 テ之ヲ作ルト

曆法

(漢 四 曆 圖)

太初曆 武帝
三統曆 成帝
四分曆 子帝
乾象曆 靈帝

春秋左氏傳ノ内處ニ曆ノコトアリ然レドソノ詳ナルコトハミヘズ
ソノ後秦母ニ至ルマテ曆法ヲ改メラルコト史傳ニ見ハレシ
漢武帝太初元年ニ平陽卿司馬遷等曆法壞廢ノ由ヲ
中ニヨリテ御史大夫兒寬ニ詔シテ曆法ヲ議セシムコレヨリ
テ夏ニテ用ヒ年号ヲ改メテ太初元年ト云太初曆ヲ作ル
曆ニ若ク付ラルハコレニハシマルソノ後三十六年ニ成帝ノ
元鳳六年ニ劉歆三統曆ヲ作ル平帝時ニ四分曆ヲ作
ル靈帝時ニ乾象曆ヲ作ル漢ノ曆法スヘテ四タニ改メラル
ニテ今ハ回ヲ見テ知ルベシ
三国魏ノ世ヨリ隋ノ時マテ曆法凡十三度改メラル唐ノ一代ハ
度改メラルニテ今ハ回ヲ見テ知ルベシ

本朝之制

日本紀ヲ按ズニ推古天皇十年冬十月百濟國ノ僧觀勒來朝シ
テ曆本ヲ宣ス並ニ天文地理遁甲方術書ヲ持シ來ル仍テ書
生三四人ヲ選テ學習セシム陽胡史祖王陳曆法ヲ習フ此本朝
曆法ノ始ナリ

天武天皇四年二月庚戌始興古星其室

持統天皇四年五月甲申奉勅始行元嘉曆其儀鳳曆 祚

徳天皇天子靈字七年八月停儀鳳曆用開元大衍曆 光仁

天皇靈字十一年ニ至テ遣唐使其等靈字五紀曆經ヲ受ス

文徳天皇齊衡三年真野麻呂五紀曆ヲ用ニテ奏シ請フニ

因リテ大衍五紀兩曆カ子用ラル天安元年三月始用五紀曆

曆法 本朝

(唐 曆 八 變 圖)

戊寅元曆
麟德甲子元曆
開元大衍曆
至徳曆
靈應五紀曆
建中元曆
元和觀象曆
長慶宣明曆
昌寧福字元曆

○

○

○

○

(本朝曆法改正)

元嘉曆
儀鳳曆
大衍曆
長慶宣明曆
貞享曆

清和天皇貞觀元年ニ渤海國ノ大使來リテ長慶宣明曆ヲ
貢ス三年六月大春日朝臣野麻呂奏ニヨリテ之ヲ用ニ
本朝長慶宣明曆ヲ用コラルコト八百年余ナリ

宋ノ時太祖ヨリ理學マテ曆法凡テ十六度改メラル

高子九州四

冀州 兖州 青州
徐州 揚州 荊州
豫州 梁州 雍州
右ヲ高ノ九州トスコノ外ニ失傳
幽州并州營州ヲイレテ齊
ヲ二州トス

州縣郡國ノ事

堯ノ時禹ヲ洪水ヲ治メシノ天下ヲ分テ九州トシ齊ノ時ニイタリ
テマシクテ十二州トス

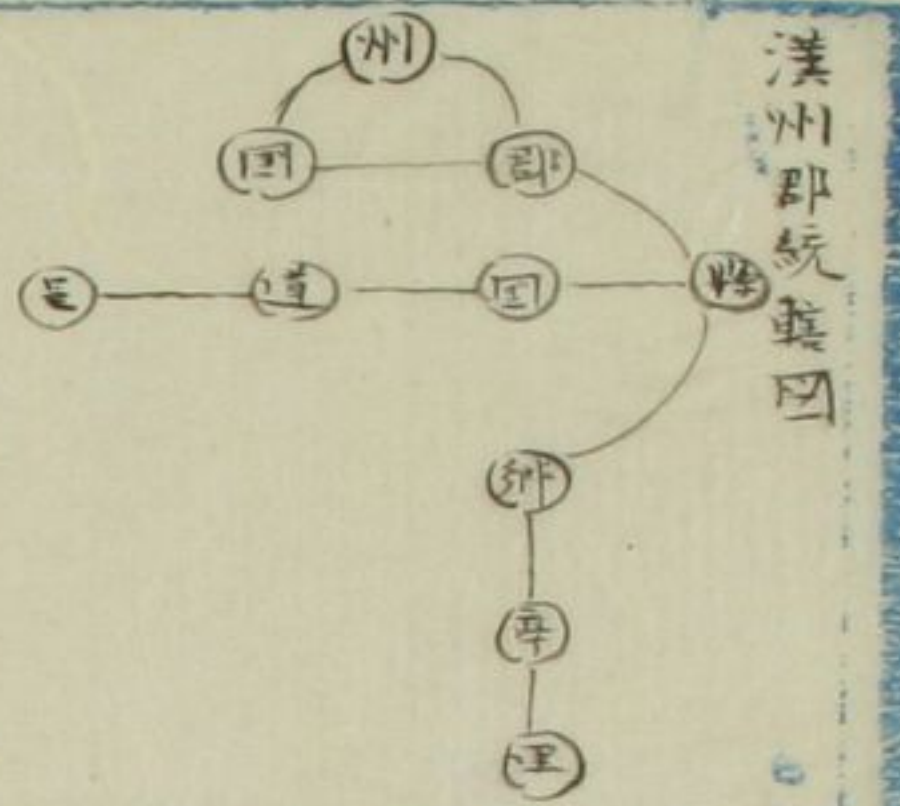
周ノ時ニ天下ヲ九州ニワリテ天子ノ都西里四方ヲ畿内トス是天子ノ公
領ナリソノ外ニ五等ノ諸侯アリ而々ノ私領トス三代ノ時ニ又斯ノ如シ

是ヲ封建トセト云高ノ時ニハ萬國アリト云段々ニ并セテ武王ノ時
ニハ八百ノ諸侯會盟ニアツカル春秋ノ時ニハ諸侯征伐互ニ相吞滅

シテ春秋ノ經傳ニ見ル者百七十國アリソノ後十二代候ニナリテ戰
國ノ時ニハ七國ニ合ス

周ノ時ニ代候強大ニシテ王室衰微ナルニヨリ奉ノ世ニイタリテ是ニ
ヨリ六國平均ノ後ニ諸侯ヲアラタメテ天下ヲ分テ三十六郡ト

州縣郡國



漢州郡統圖
 郡トシテ守尉監各一人ヲ置リ守ハ民ヲ治メ尉ハ武事ヲ掌リ監ハ之ヲ目付ラヌ郡ノ下ニ縣アリ縣ニ令丞尉アリコノ時ニハ天下ヲトシテ公領トシテ諸侯ノ國ナシ其後又四郡ヲマシ四郡ナリ是ヲ郡縣ノ世ト云故ニ古今ヲ大畧ニリクテ三代ハ封建後世ハ郡縣世ト云

本朝之制 分五畿七道道統國々統郡郡統鄉國
 有國司郡有郡司

神武天皇都ヲ大倭國橿原ニ定メ天皇ノ位ニ即キタマウツ時木
 倭國葦城國ノ造ヲ定メソノ外功アルモノニ國造ヲ賜フソノ次ハ
 縣主ヲ定メタマウソレヨリコノカタ代々ニ任セラレテ和銅ノ比マテニ
 總任國造而四十四アリレカレバ上世ハ日本而四十四國ニテ國トシテ國
 造一人アリテコレヲ管掌ル

日本紀 成務天皇四年詔曰云自今以後國郡互長縣邑置首即取
 當國之幹了者任其國郡之首長是為中區之藩屏也又五年秋
 九月令諸國以國郡互造長縣邑置首並賜楯矛以為表也
 皇極帝以前國司名見ユ 國司ハ國造ヨリ權重シ

州縣郡國本朝

是首稱置等ノ名ハ本道里長
 ニテ民ヲ治ム官稱ナリ後世
 シ玉朝臣 宿祢ト同シ名トスル
 村主トスグト云ムトシテコトアル
 ベシ

本朝地理統轄圖

① 古各道
② 國名
③ 郡名
④ 縣名
⑤ 郡縣統轄
⑥ 郡縣統轄
⑦ 郡縣統轄
⑧ 郡縣統轄
⑨ 郡縣統轄
⑩ 郡縣統轄

昔王朝盛ニナリシ時、諸郡ニ軍團ト云者アリテ武士ヲアマク入オキテ
兵衛、備ヲナシ土地ノ要害ニ應ヒテ之ヲ置リ、聖武天皇ノ神龜五
年四月陸奥國請款置白河軍團又改丹取軍團為玉作團
並許之ニマリ白河玉作陸奥郡ノ名ナリ
天獻通考四裔考ノ内詳ニ日本ノ事ヲ著セリ云ユ畿七道凡
二千七百七十二鄉四百一十四驛八十八萬三千三百二十九課丁也
此本朝一條院ノ時宗ノ僧某來朝ノ時ノ調ナリ

郡縣大小等差ノ事

本朝之制、凡國四等有、大國上國中國下國之差、郡五
等有、大郡上郡中郡下郡小郡之差

本朝正世ムカシ國郡大小統轄ノ制、詳テラガムカシヨリクハト云ムラト云
コトハ、云ムホハト云ミヤカト云フイツレモ土地ノ名ナリ、郡國郷里縣
是等ノ字ヲ用ケテ之ヲ澤スコシニ因リテ、聖ノ制、某國某郡某郷
ト大ナ相ツラテ之ヲ列ツ、神武紀ヲ考フルニ、菟狹國ト云昔備
國ト云筑紫國ト云又難波ヲ浪速ノ國ト云又河内國草香邑
倭國磯城邑入菟田縣名草邑等ノ名アリシカレハ、ソノカニ大
ナラクハト云小ナルヲアガタト云ムラト云コトシムベシ、後世漢字ヲ
タラテ後郡國邑里大小ノ義アルヲ以テ、沃シテコレヲ分ツトヘリ

郡縣大小等差 本朝

横山清曰、太皇合以後、割也

本朝地理ノ事記ハ近江國
 甲賀郡ト書クニ注ナリ若シ
 是レテ漢名ヲ用テハ江州
 甲賀縣トカクニ或ハ江州中
 賀郡トナリハ和漢雜記ニテ
 云ニテス

大郡 二十里以下十六里以上
 上郡 十二里以上
 中郡 八里以上
 下郡 四里以上
 小郡 二里以上

大宝年中制

成務天皇ノ時詔シテ諸國郡ニ造長ヲ立テ縣邑ニ首或ハ稱
 置ラオクシテハ此ヨリ以前ニ郡縣ノ別ハアレハ官守タレナラズ
 時ニソノ守護ノ官ヲ定メタマフナリ孝徳天皇ノ時ニ至リテ后
 郡縣ノ制愈明備ナリ皇行帝武皇ヲ以テ天下ヲ予定シ玉フ
 孝徳天皇二年ニ改新ノ詔ヲ宣ヒ制法ヲ定メラルコノ時ニ天下
 郡ヲ三等ニ次第ヲクテ四十里ヲ大郡トシ三十里以下四里以上ヲ中
 郡トシ三里ヲ小郡トスイトツレモ大領少領主計主帳等ノ官
 人アリ軍トイフ 八道ノリノ里數ニアラズコノ時ニ五十戸ヲ定メ
 テ下在所トシテ是ヲ一里ト云一里コトニ里長一人アリ
 文武天皇大宝年中ニ令テ 定ムルノ時ニハ郡ヲ五等ニ分ツルニ
 奉ル回ヲ見テ知ルベシ 此時ニ 二ノ云ハ家數五十間アル所ヲイフ

本朝郡國等差同

大國 上郡 大郡
 中國 中郡 中郡
 小國 下郡 小郡

右ノノモリナレバ千戸ヨリ八百
 戸モテノ所ヲ大郡トス六百戸
 以上上郡トス四百戸以上ヲ
 中郡トス二百戸以上ヲ下郡
 トス百戸以上ヲ小郡トス

内朝外朝並ニ朝會ノ事

周ノ時天子ニ三朝アリ四朝治朝外朝ト云

内朝外朝並ニ朝會

横山氏曰制度十一殿ノ凡ハ十
七殿ノ誤ナリ

本朝之制

太極殿為正殿有紫宸等十七殿又有

六舎三坊

○拾芥抄云太極殿正殿名云八省院是也又謂之最大殿又云八
省院天子臨朝即位諸司告朔所或云辨朝堂院又云紫宸
殿俗云雪殿凡四面庇之、本朝、制于安城アリ皇城アリ宮城
アリ于安城ハ左京石京ナリ皇城ノ内ニアリ東西八町南北十町
ナリ太極殿正殿正殿諸司百官ノ内ニアリ宮城ノ内ニ
アリ即所謂内裏ナリ紫宸殿清涼殿等ノ内ニアリ

○本朝節會ノコト正月ニ三度アリ冬至宴會ノコト聖武天皇
神龜二年御大安殿受冬至賀辭、桓武天皇延暦十一月
朔日ニ慶賀ノ礼ヲ行ヒ田租ヲ免ケル本朝朔旦冬至ノ禮因史

内朝外朝並ニ朝會

ニアラハル、是ヲ始トス是ハ黄帝ニ十二年甲子トシテ始トシテ曆
三年ヲテ三ヶ四百二十年ナリニ遂ニ善ヲ除キテ六ヶ言テ章首ニア
ル是ヲ延曆三年トスソレヨリ後十九年コトニ必ニ嘉即ヲ得是ヲ
朔旦冬至ト云

宮殿名称事

古ヨリ至尊ノ
所居ヲ宮ト云管子ニ黄帝ノ時ニ合宮アリト云
上世ノコト固シレハレテ夏桀瓊宮殿臺ヲ作ルト云春秋ノ時ニ桓宮
僖宮アリ魯ノ桓公僖公ノ廟ナリ孟子ニ雪宮アリ齊宮ナリ王ノ
別業ナリレカレハ周ノ前ツカタヨリタレカニ宮ト稱シタルコトニハタリ
然レ古ハ上下ニ通シテ宮ト云テ心ニ天子請候ニ限ラス父子異宮
ト云ラミテシルベシ

事物紀原云商君之書有言天子之殿則是秦自孝公而
未已云然蓋秦始皇始曰殿也漢因之ト大抵古書ニ殿閣ノ名
ニハス秦漢ノ比ヨリハレカルトミナリ
宮ト殿ト差別諸書ニアラハス漢書ノ制度ヲ考フルニ其ワ

宮殿名称事

カケアリ宮ト云ハ王候所居總ガマナリ今時ノ俗ニヤカタヤシキト
言フカ如シ殿ト云ハソノ中ニアル殿堂ノ建モノ、コトナリ秦ノ時ニ
阿房宮ノ内ニ阿房前殿アリ漢ノ制度ヲ考ルニ未央宮ハ
周回二十八里中ニ宣室麒麟等三十二殿アリ建章宮ハ周
回三十里ニ中ニ玉堂神明等二十六殿アリ然ハ宮ノ内ニ
殿アルコトコノ文ニテ見ルベシ

本朝之制 宮殿

本朝宮殿ノ名漢書唐ノ称トカクルナシ 神武天皇ノ本
紀高島宮楹奈ノ宮ト云ゴトキハ皇宮ヲスベテ云フリソ
後世ニ某ノ宮ト云イッレモ同キコトナリソノカミシヤト云

横山曰三十坊ハ左右等トモ
三十八坊ノ誤ナリ

詞ヲ宮ノ字ヲ用テ之ヲ譯シトハ云詞ヲ殿ノ字ヲ用テ譯
スソノ後隋唐ニ來漢土ノ名称ヲ用ヒラレテヨリ太極殿紫
宸殿ノ名アリ又太皇太后宮皇太后宮皇白宮ヲ三宮
ト云イッレニ後宮ノ称ナリ此等ノコトイッレモ漢唐ノ称ト向レ

都邑坊城並ニ皇城宮城門号ノ事

本朝之制 平安城以東曰左京領三十坊以西曰右
京領三十坊南北九條皇城在其中四
面凡十四門

本朝都邑ノ制 神武天皇ヨリ已來處々ニ遷都アリ

元明天皇ノ時于城ニ都ヲ定メタマヒ 元仁天皇マテ七代七

都邑坊城並ニ皇城宮城門号

十五年、向方、左京、右京、坊城等、制畧ソナハレリト見ヘタリ然
其詳ナルコトシルベカラス 桓武天皇、延暦十二年二月甲
午、使テ遣シ山背ノ国葛野郡宇太村、地ニ都ヲ遷シ玉
フ都邑坊城ノ制今ニ至リテ考フベシヨリサキノ制法又是ニ
ヨリテオシシルベシ 延暦十三年甲戌十月遷都幸アリテ後詔
曰ク山背ノ国ヲ改メラ山城ト名ク又都ヲ平安京ト名ツケテ
ハコトコノ時ニ定ル

左右京ノ廣サ東西三十二町南北三十八町ナリ朱雀通左京右
京ノ間ニアリテ路幅ニ十八丈ナリコレヨリ東ノ分ヲ左京トス左
京職是ヲ掌ルソノ内ニ町六百八保百五十坊三十六アリ東ノ
ハツレテ京極ト云コノ間東西十六町ナリ是ヲ左京トス朱雀ヨリ

西ノ分ヲ左京トス右京職是ヲ掌ルソノ内町保坊ノ数左京ト
同シ西ノハツレテ又京極アリテ是ニコトス又十六町ナリ左京ノ京極ハ
今ノ寺町通リナリ朱雀街ハ今ノ千本通リナリ是ヲ平安城左
右京ノ大略ナリ

皇城ニ一條ニ條ノ間ニアリ今ノ大宮ヨリ西ナリ東西八町南北十
町ナリ皇居官府トモニソノ内ニナリソノ南門ヲ朱雀門ト云三
條ヨリ南ニ條コトニ坊名アリテソノ間ニ坊門アリ

坊保ノツモリハ市宅一間ノ廣サヨリオコル市宅一間ヲ間ヨリ五丈ニ
裏行ナドト定メ是ヲ一門ト云左京ハ西北ヨリカヅヘ右京
ハ東北ヨリカヅヘ是ヲ八間並ヘタルヲ一行ト云今ノ町宅尾カ
ノツモリナリコノ一行ヲ左京ハ西ヨリカヅヘ右京ハ東ヨリカヅヘ四

都邑坊城並皇城宮城門号

ツ並ニテ一町ナリ拾芥抄ニ云一町之内有四行一行之内有八
 門ト是ナリ四ヲ按スルニ一行ツ、裏ヲアハセテ中ニ道スジアリ今半
 町ツ、突抜ナリサテカクノゴトキ一町ヲ四ツ目結、如クニ四ツ並ヘタル
 ヲ一保ト云カクノ如キ一保ヲ又四ツ目結ノ如クニ並ヘタルヲ一坊ト云
 又カクノゴトキ一坊ヲ西東ニ四ツ重テタルヲ一保ト云左京ハ西ヨリ
 カクハ右京ハ東ヨリカヅフスベテコレヲ一ハ一保之内四坊十六保六
 十町ナリ拾芥ニ云凡一保之内有四坊一坊之内有十六町十六町
 之内有四保ト是ナリ畢竟八戸为行四行爲町四町爲保四保
 为坊四坊爲條ナリ左右京ニカクノ如シ
 今ノ人一條通リヲ桃花坊ト云ニ條通リヲ銅駝坊ト云テ一
 通リノスレノ各トオモフハナヤマリナリ 總列條トイフハ上ニ舉タル

(門三城安平) (回名坊條九京右左朝本)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------|------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 應天門宮城門 | 朱雀門皇城門也大内三南 | 羅城門平安城郭門三重 | 七間 | 桃花坊東一條 | 銅駝坊東一條 | 教業坊東一條 | 毓財坊東一條 | 永昌坊東一條 | 永軍坊東一條 | 宣美坊東一條 | 宣瓜坊東一條 | 淳瓜坊東一條 | 安寧坊東一條 | 崇仁坊東一條 | 陶地坊東一條 |
| | | | | 光德坊東一條 | 疏財坊東一條 | 延喜坊東一條 | 開建坊東一條 | | | | | | | | |

通リハ四町ニタテ十六町、場アリ今ノ地理ニ在テイハ本ヨリ
 寺町ニテ、間ニ條三條、間ニ三條トシテ古教業坊ノ地ナリ其
 餘コレニ準スルニ今ニイタリテモ二條以下每條相サルコト四町
 ニテソ、間ニ坊ナリ
 平安城外ヨリ内へハル三重ノ門ナリ周ノ時天子ニ五ノアルカコトシ羅城
 門ハ平安城ノ正南門京都南ノ入口ナリ旧跡今ニ在リ朱雀門ハ即十二
 門ノ朱雀門皇城門正南門ナリ唐ノ時之ヲ丹鳳門ト云丹鳳ハ即朱
 雀ト其義一ナリソ、旧跡今平本二條邊ニアタルソ、内ニ皇居並

都邑坊城並ニ皇城宮城門等

(大内二十門)

陽明門 東西 待賢門
郁芳門 美福門
朱雀門 里嘉門
談天門 西 薛壁門
殷富門 嘉嘉門
得賢門 延智門

百官諸司より皇居是ヲ宮城トシテソノ門ヲ應天ト云百官ノ存
ソノ外ニ在リ

三公三師三少ノ事

本朝之制 置三公

唐ノ時ニ三師三公アリ本朝ニハタニ三公バカリニシテ三師ニ少
等ノ官ヲシ故ニ孝謹帝改号ノ時ニ三師ノ号ヲトリテ三
公ノ名ヲ易ヘラルナリ

本朝三公ハ師範ヲ設ケミニアラズ太政官ヲ尚書省ニ準スルハ
左右大臣ハ即長官次官アリシカレバ唐ノ三公ノ各ト尚書省ノ
長官次官ト又平章事同ニ品等ノ宰相ノ任トラニシタルニ
リ

本朝三公

太政大臣
左大臣
右大臣
是為三公

三公三師三少

本朝之制

太政官総天下之事左右雜分管八省

本朝上世大臣、辨ナシ執政ノ人ヲ称シテ食国申政大夫ト云

皇行天皇、時ニ武内、宿祢棟梁臣トス、成務天皇ノ時ハ

シテ武内宿祢ヲ大臣ト称ス大臣ノ名是ニハシマル、仲哀天皇

ノ時ニ大伴、武持ヲ大連ト号ス是ヨリ大臣大連相並ニテ事

ヲ行ヒ代々ニ大臣大連ヲ置ケリ、皇極天皇、四年六月ニ孝徳

天皇即位阿部倉橋麻呂ヲ左大臣トシ蘇我山田石川麻呂

ヲ右大臣トシテ大連ヲ罷ナラル左大臣ノ名是ニハシマル

天智天皇ノ十年ニ及テ大友皇子ヲ以テ太政大臣ニ拜セラレ

持統天皇ノ時ニ高市皇子又任セラレ是ニオイトテ三公ノ名

備ヘリ又天智天皇ノ八年ニ中臣鎌子連ヲ擧テ内大臣

太政官左右辨官圖

左辨 中務省 式部省
治部省 民部省

右辨 兵部省 刑部省
大藏省 宮内省

トシ藤原朝臣ノ姓ヲ賜フ 文武天皇令ヲ撰ミタマフ時ニコノ
官ナキニヨリテ是ヲ令外官ト云

孝謙天皇天智宝字二年太政官ヲ改メテ乾改官ト云太政大
臣ヲ太師ト改メ左大臣ヲ太傅ト改メ右大臣ヲ太保ト改メ大納
言ヲ御史大夫ト改メソノ餘官號コトハク改更セラル

開元淡路寺ノ時ニ至リテコトハク旧名ニ復セラル
元仁帝ノ時ニ又内大臣ヲ任セテ左右大臣ノ下ニナリ

太政官左右辨管八省ノ制唐ニ擬シ左辨官ハ中武治民四省
ヲ掌管シ右辨官ハ兵刑藏憲ノ四省ヲ掌管ス

左大史ハ左辨官ノ局ヲ掌リ右大史ハ右辨官ノ局ヲ掌リ
外記ハ少納言ノ局ヲ掌ル是ヲ合セテ三局ト云

六官九寺六部八省ノ事

本朝之制 置八省分管諸司

本朝唐ノ六部ニ準シテ八省ヲ置ク 孝徳天皇大化五年
ニ置八省百官ト因史ニ見ハル

天智宝字二年官號改易ノ時ニ中務省ヲ改メテ信部省トス
式部省ヲ改メテ文部省トス治部省ヲ改メテ礼部省トス民部

省ヲ改メテ仁部省トス兵部省ヲ改メテ武部省トス刑部省ヲ
改メテ義部省トス大藏省ヲ改メテ節部省トス宮内省ヲ改メ

テ智部省トス以上建美押勝等ニルコトヲ押勝事破レテ
ハクノ内ニ復ス

本朝後宮品員圖

| | | |
|----|--|------|
| 妃 | 二員 | 四品以上 |
| 夫人 | 三員 | 五位以上 |
| 嬪 | 四員 | 五位以上 |
| 宮人 | 義解 ^三 婦人 ^三 仕 ^三 止 ^三 者 ^三 之 ^三 也 ^三 | |

本朝之制

後宮有妃二員夫人三員嬪四員宮人
有内侍司等十二司又有中宮職掌後
宮事其官如春宮坊

本朝妃嬪ノ職ソ、來ルコト久シ令ニ載スルトコソ、次第カク、
 コトシ内侍司以下藏司書司藥司兵司庫司殿司掃司水
 司膳司酒司鮮司凡十二司アリ、内侍司ニ尚侍典侍掌侍
 三等アリ以下ノ諸司此ニ準ニテ差アリ、ツレモ女孀或ハ采女若
 千人アリテ之ニ属ス采女ハ令ヲ按スルニ古ハ郡ノ少領以上ノ姉妹
 並ニ子ヲ選ビテコレヲ中務省ニ申シテ奏聞ス諸国ヨリ之ヲ
 進ルアリコレヲ掌ル司ヲ采女司ト云コ、外又上臈ハ上臈中
 臈下臈得選カ自等ノ名マリ

東宮官属ノ事

東宮、祔春秋、^{ナリ}其ヨリ見ユソ、カミ諸候ノ太子ヲ東宮ト云
 古ハ太子世子ノコトハ太子諸候ニ通用ス

本朝之制 東宮有侍學士置春宮坊

東宮ハ太子ヲ云春ハ東方ノ象ナルヨリテ又春宮トモ三同キコトナ
リソノ内侍學士ハ東宮侍學士ト書テ春宮トカクコトナ
シ国史ノ表序等ニ直ニ皇太子侍學士トカキタル處
唐朝テ太子太傅少傅ト云カコトニ天子カリノ御ツケ人ナリ
大夫亮進等ノ官人ハ春宮ノ大夫春宮亮トカキラ東宮トカリ
コトナシ是ヲ坊官ト云唐ノ左春坊右春坊ニ準ニテ春宮坊ト
名ケラレタルユヘナリ

本朝之制

親王祿品凡四階諸王諸臣祿位凡三十
階官曰任位曰叙唯此一任虛而不授不
別置散官名

令義解云品位也親王祿品者別於諸王

推古天皇ノ時ハシメテ大德冠已下ノ冠位十二階ヲ行フ

孝德天皇ノ時ニ大職冠已下七色十三階ノ冠位ニ改メラル

コノ後又大職已下十九階ニ改メラル

天智天皇ノ時ニ増シテ大織小織ヨリ以下大建小建マテ二十階

ヲ定メラル 天武天皇ノ時ニイタリテ爵位六十階ヲ定メテ期

大ニヨリ淨廣四マテ十二階ヲ諸王ノ位トス正大一ヨリ進廣四マ

テ四十八階ヲ諸王ノ位トス

官秩位階心從

本朝親王四階

一品
二品
三品
四品

文武天皇、大寶元年、明冠四階ヲ親王、位トシテ一品ヨリ四品ニ至ル、洋冠十四階ヲ諸王、位トシテ正一位ヨリ從五位ニイクル、直冠ヨリ直冠マテ三十階ヲ諸臣、位トシテ正一位ヨリ少初位下ニ至ルスベテ四十八階ナリ、是ヨリ前ハカクハ位階ニ隨テ冠ヲ賜フコノ時ニ嚴ラレテ位記ヲ給ヒ、又服制ヲ定メラル、又外位ニ十階アリテ直冠ヨリ直冠マテ六段ヲ正從上下ニ分テ外正五位ヨリ外少初位ニイクル、其後令ヲ定メ、時ニイタリテハコトマタミエズ、右ノ事シゲレバコノ処ニアラハサズ、又大寶年中ニ令ヲ定タマウ官位令ニノスル所親王一品ヨリ四品マテ凡テ四階諸王、諸臣正一位ヨリ少初位下マテ凡テ三十階

諸王五階 諸臣三階

| | |
|------|------|
| 正一位 | 從一位 |
| 正二位 | 從二位 |
| 正三位 | 從三位 |
| 正四位上 | 從四位上 |
| 正四位下 | 從四位下 |
| 正五位上 | 從五位上 |
| 正五位下 | 從五位下 |
| 從五位上 | 從五位上 |
| 從五位下 | 從五位下 |
| 正六位上 | 從六位上 |
| 正六位下 | 從六位下 |
| 從六位上 | 從六位上 |
| 從六位下 | 從六位下 |
| 正七位上 | 從七位上 |
| 正七位下 | 從七位下 |
| 從七位上 | 從七位上 |
| 從七位下 | 從七位下 |
| 正八位上 | 從八位上 |
| 正八位下 | 從八位下 |
| 從八位上 | 從八位上 |
| 從八位下 | 從八位下 |
| 大初位上 | 大初位上 |
| 大初位下 | 大初位下 |

テレヨリ以後歷朝承用ヒラシテ沿革ナシ

少初位上
少初位下

本朝之制

凡任兩官以上者一為之餘皆為兼凡任
内外之武官本官有高低者若職事卑

行高為守

本朝官位兼行守ノコト又智ニ本ツク位階卑ニテ官高キトキハ
守トカク從三位守大納言トイフカ如シ大納言ハ相言從二位
ナリ位階高ニテ官卑キ時ハ行トカリニ位行大納言ト
云ガ如シコノニツハ位ト官ト高下アリ共ニ位ヲ先ヘ書ニ官ヲ
アトニシルスモシ官位相奇ノ時ハ行守ノ字ヲ用ヒス大納言
從二位ト必官ヲ先ヘシルスナリ諸官何レモ内シキコトナリ

兼行守訣

本朝之制 凡官四分有長官有次官有判官有

主典

本朝之制全リ唐ニ從ヘテ太政官以下省臺職寮府軍郡ニイ
タルモノ何レモ四分配當アリ文字ハカハレカミスケセウサ
ワシト讀ハ局ニヨリテハ直ニ長官次官判官主典ヲ以テ官ノ稱
トス鑄錢司勘解由使ノトキ是ナリ源順ノ和名鈔ニノス
ル所マシヘ考フベシ又官ニヨリテタ、三分ニテ四分テキアリ
諸司諸署並ニ内膳司鎮守府ニハタ、カミセウサクワ
ンアリテスケナシ是モ唐ノ制ニヨル

官職四分

本朝四分配當回

長官

次官

判官

主典

伯祿祇

副

祐

史

卿八省

輔

丞

録

大夫數

亮

進

屬

頭諸寮

助

允

屬

尹臺

弼

忠

疏

督寮府

佐

尉

志

守回

介

掾

目

三諸司

佑

佑

令夫

首署

佑

佑

令夫

長官 司使 次官

判官

主典

詔勅制詰並位記

古三代時天子ノミコトノリ通シテ命トイフ奉ノ始皇
天下ヲ一統スルニイタリテ命ヲ改メテ制ト云令ヲ改メテ詔ト云
是ヨリ詔ノ名オコル漢ヨリコノカタ後世ニ至ルマテ其通リナリ
命ト令トノ差別ハ大ヲ命ト云トラ令ト云

本朝之制 有詔書有勅書有位記有宣東宮

日令旨

〇詔書式

詔旨之威悞

年月御書日

中務卿位臣姓名宣

中務大輔^位臣姓名奉

中務少輔^位臣姓名行

太政大臣^位臣姓名已下外記
シルストコナリ

左大臣^位臣姓

右大臣^位臣姓

大納言^位臣姓名

大納言^位臣姓名

大納言^位臣姓名

大納言^位臣姓名等言吟時大納言
四人十人但連名

詔書如右請奉

詔付外施行謹言

年月日

可 御書

右令ニノスル所詔書式カリノ如シ其中大事ヲ以テ
蕃國ノ使ニ宣フニハ詔旨ト云フニ明神御宇日本天皇
ト云字ヲ加フニテ朝臣ノ大事ヲ立坊ニ后ノ如キコトハ

明神御宇大八州天皇ト云字ヲ加フルナリ中事任大臣以
上事ハ天皇詔旨ト書ス小事五位ヲ授ル以テニタテ詔旨
トバカリ書ス

凡詔書ハ内記御所ニ於テ作リ訖ラコシラ中務卿ニ給ス中務
卿是ヲ大輔ニ宣ス大輔奉シテ是ヲ少輔ニ付シ大改官ニ送
ラシム故ニ宣奉行ト云アリモシ中務卿カクルトキハ大輔ノ下ニ
宣ト書シ少輔ノ下ニ奉行ヲアハセ書ス大輔モカクル中ハ少輔
ノ下ニ宣奉行トモ是ヲ書ス少輔モアラシバ丞録ニイタリテモ
又如此

又詔書ハ内記草シオハリテ中務省ヘワタスソシユヘ太政大臣
ト云ヨリ以下ハ外記ノ官人中務省ヨリキタル詔書ノ後ニ於テ

註記ハ故ニ外記ノ職掌ニ勘詔奏ト云

又詔書ハスベテ三通リ寫シカユルナリ先ツ内記ノ草スル詔書御書
ハノナルヲ中務省ニトメテ案トス且一通ナリ中務省ニノ別ニウ
ツシクハ即署シテ太政官ヘ送ル大納言奏聞シ天皇畫可オハル
是ヲトメテ案トス且三通ナリ是ハ何モ官府ノ和アリ太政官
又更ニ三通リ寫シ施行ス是ニテ三通ナリ

勅ニ詔ト同キコトニテ三通寫シカユルナリ

詔ト勅ノ差別ハ臨事ノ大事ヲ詔ト云尋常ノ事ヲ勅トス
同リ是給ニ言テリ

○勅授位記式

中務省

本位姓名 年若干 授其位
年月日

中務卿位姓名

大政大臣位姓 大納言加名

式部卿位姓名

右五位上 位階ヲ賜フコト
ナリ見在長官一人等 中
務省卿 大政大臣 式部卿 ナリ長
官ニシテカクハ 大臣ニハ大納言
中務式部ニハ大輔ニハ少輔式
部ニハ少輔ス

○勅旨式

勅旨云々

年月日

中務卿位姓名

大輔位姓名

奉勅旨如右

符到奉

行

年月日

史位姓名

大辨位姓名

中辨位姓名

少辨位姓名

○奏授位記式

太政官謹奏

本位姓名 年若干 其國其郡人 授其位
年月日

大政大臣位姓 大納言加名

式部卿位姓名

(官授等之回)

冊授 制授 勅授 判授 補授

冊授勅授事

唐ノ時官位ヲ授ルニ冊授制授勅授判授補授五等アリ冊授ト云ハ冊ニ書ク諸王並ニ二品以上ノ人ニ是ヲサツク制授ハ五品以上勅授ハ六品以下ト三等ハ何レモ宰相ノ所行ナリ判授ハ六品以下文武官高書者ヨリコレヲ授ル視品流外官ハ判補ナリ

本朝之制 除官曰任叙位曰振各有三等

唐ノ制ハ官職位階ニ通用シテ上ノ五等ノ別アリ 本朝之法ハ官ト位ト各別ニシテ官ニ降スルヲ任ト云テ勅授奏任判任ノ別アリテ其下ヲ判補ト云位ヲ叙スルヲ授ト云テ勅授奏授判授三等ノ別アリ

冊授勅授

(本朝授任三等)

勅任
奏任
判任
判補
勅授
奏授
判授
古任官三等
右授任三等

勅任ト云ハ天皇ノ直ニ命ニ玉ヘテ官ニ任スルヲ云大納言以ニ左右大
辨等ノ如キ是ナリ奏任ト云ハ大臣奏聞ニテ任スル官内外諸
司ノ主典以上等ナリ判任ト云ハ上ニ奏スルニ及ハス大政官ノ判断ニテ
任スル官郡ノ主政等ナリ判補ト云ハ式部有ノ判断ニテ補スル
職令ハ史生等ノ如キ是ナリ
位ニ勅授ト云ハ内外五位以上奏授トハ内八位外七位已上判授
ト云ハ内外初位以上勅奏判ノワケ任官ノ例ト曰ニキコトナリ

本朝服制三等四

禮服
朝服
制服

續日本紀云文武天皇大
宝二年二月朔天皇御太
極殿受朝親王及大
納言已上始著朝服
王臣已下著朝服

服章事

有禮服有朝服有制服

衣服令ニ
載スルトコ
ロ

礼服ハ皇太子以下親王諸王臣各差アリ大祀大嘗元日
之ヲ服セラル内親王女王内命婦并武官各別アリ朝
服ハ親王一品ヨリ四品マデ諸臣一位置ヨリ初位ニテ各差
アリ朝廷ノ公事ニ之ヲ服ス制服ハ無位ノ者公事ニ服ス
本朝冠服ノ制考テヘキハ推古天皇十一年十二月壬申始テ冠
位ヲ行フ大徳小大仁小大禮小大智小大義小大智小
并セテ十二階並ニ等色ノ純ヲ以テ之ヲ縫フ頂撮拵テ如畫
縁ヲ著リ唯元日暨華ヲ著リ十二年三月朔始テ冠
位ヲ諸臣ニ賜フ

服章事

孝徳天皇大化三年ニ七色十三階ノ冠ヲ制セラル七色トハ深
 紫浅紫直緋紺緑黒ナリ十三階トハ一織冠ニ繡冠
 三紫冠四錦冠五青冠六黒冠共ニ大小ニ階七建
 武合セラ十三階ナリ何レモ錦鑄以テ造ルトミタリ又縁アリ
 コモ錦緋ニテソレハノ制アリソノ服色ハ織冠繡冠ハ深紫
 紫冠ハ浅紫錦冠ハ直緋青冠紺黒冠ハ緑ト五等ナ
 リ又五年二月ニ冠十九階ヲ制ス
 天智天皇三年二月ニ冠二十六階ヲ制ス 天武天皇十四
 年ニ六十階ヲ制ス
 文武天皇大宝元年始メテ新令ニ依テ改メテ官位号ヲ制
 スコノ時始メテ冠ヲ賜フコトヲ停テ易ルニ任記ヲ以ストアリ

本朝服制八等四
 深紫 親王 諸王
 浅紫 三位以上
 深緋 四位
 浅緋 五位
 深緑 六位
 浅緑 七位
 深緋 八位
 浅緋 初位

又服制アリ親王四品以上及王諸臣一位者ハ皆黒紫法王
 二以下諸臣三位以上ハ皆赤紫直冠上四階ハ深緋下四階
 ハ浅緋勤冠四階ハ深緑務冠四階ハ浅緑追冠四階ハ深
 縹進冠四階ハ浅縹帯冠緋帶白鞞里帶白袴ハ
 直冠以上ハ皆白縹袴勤冠以下ハ白胫裳ナリ

印章ノ事

印

有内印有外印有諸司印有諸国

令天子神璽ト上ケ註ニ曰謂踐祚之日壽璽至宝而不用
 トソノ下内印外印諸司印諸国印イッレモ詳ニ其制度ヲ
 記ス内印トハ御印ナリ俗ニ御印ト云フ天ノ天皇之璽ト
 云四字ナリ五位以上ノ位記并ニ諸国ニ下ス公文ニ之ヲ印ス外印
 ハ官ノ印ナリ文太政官印云六位以下ノ位記位亦ニ太政官
 ノ文案ニ之ヲ印ス諸司ノ印アリ此ハ者其重宰司等ノ官人
 ヲリ上ル公文並ニ案移牒ニ之ヲ印ス諸国印アリ此ハ京
 へ上ル公文並ニ案調物ニ之ヲ印ス

俸禄ノ事

有禄有位田有職田有封戸親
事帳内公廨等各有其差又有年

給

又二国ニ封セラルコトアリ 廢帝天智宝字四年八月ニ先朝ノ
贈ニ一位太政大臣不_レ以_レ等ヲ封シテ淡海公トス 没後ノ贈号ト
見ヘタリ 国ニ封セルハ各ハアリコノ後封号九人頭ニ奉リ
又帳内資人事カマリ 禄令ニ載セサレドイウシモ公ヨリノワタリ
人ニテ在職ノ中ハ給事ニルヤリ 帳内ハ親王ニ給ス一品ニ百六十八
ヨリ以下四品ニ一人ナリ 六位以下ノ子并ニ庶人ヲ以テコレトス 按
人ハ大臣納言並ニ諸臣一位ヨリ 從五位ニテ之ヲ給ス一位ハ百人
ニ位ハ八十人ヨリ 以下從五位ハ二十人ニ減半ナリソノ太政大臣

俸禄

三百人左右大臣二百人大納言百人致仕人減半ナリ
 シモ内八位以上人子ハ取ラズ又事カト云モノハアルキモノナリ太
 宰ノ師ニ二十人諸國ノ守ニ大國ヨリ下國マテ八人ヨリ三人マテ
 段ニ差アリソノ外博士令史史生マテ五人ヨリ三人ニ人マテ又
 差アリイウシモ一年ニ替ニテ上等戸内ノ丁ヲ取テ之ヲ給ス
 凡位用トハ位階ニ因テ之ヲ賜フ親王凡四段諸臣一位ヨリ五
 位マテコレアリ女ハ三分ノ一ヲ減セラル
 凡職田トハ官職ニ就テ之ヲ給フ又職分田トモ云フ太政太
 臣ヨリ納言ニ至マテナリ

内三

功田ハ功次第ニ因テソノ田祿ヲ子孫ヘ傳ヘ給フコトナリ令マ
 曰大切世々不絶上功傳三世中功傳二世下功傳子大功非

内三
 職田

太政大臣 四十丁
 左右大臣 三十丁
 大納言 二十丁

謀叛以上以外非ハ處之陸各並不收

コノ外入年官年爵ヲ給フコトナリコレヲ年給ト云職原鈔云
 見任公卿納言以上有封戸職田又毎年除目有年給大臣隔
 年任諸國掾一人納言三年一度任掾一人冬儀者不任掾但
 獻五節之翌年給之其外皆給諸國目一人史生二人是分其
 俸之儀也

本朝祿秩ノ法通シテ之ヲ考ルニ祿封戸位田職田年給ノ五
 品ナリ祿ハ絹布ノ類ヲ給ス封戸ハ戸口ヲ給ス位田職田ハ土地
 ヲ賜ヒ所段ヲ以テ計ル年給ハ官爵ヲ任スルヲ給フ
 本朝給祿ノ制祿令ニ詳ナリ一年中ヲニツニ分テ春夏秋冬ニ季
 ハ二月上旬ニウタス秋冬ニ季八月二旬ニウタス春夏ノ祿ハ

前年八月ヨリ二月マデノ内上四百二十日以上ニ及ブモノヲ今年
二月ニワタス秋卷モ之ニ準ス二月ヨリ七月マテノ禄ヲ四年
八月ニ渡エタルベシ禄ハ純綿布整ノ四種ナリタトヘハニ從
一位ハ純三十疋綿三十疋布百端整百四十口大小
初位マテ段々差アリ又純一絢ヲ以テ綿一疋ニ代フ鐵二疋ヲ
以テ整五口ニ代ルコトアリ

令云凡在京文武職事及太宰壹岐對馬等依官位給
禄ト云、百官職事アルハイツレモ禄ヲ給フナリ禄ハ上ノ四種
ニテ米粟ヲ給スルコトハナシ

凡給封戸ハ古ハ民家ニ課戸不課戸ト云コトアリテ家内ニ課
丁一人アル以テ課戸トシテコレヲ計テ給スルナリ課トハ役ト

年十六ニナレハ軍役ニ出ルニ因テ平生一人手前ヨリ役ニ庸布
ヲ出スコレヲ課丁ト云ソノアル家ヲ課戸ト云サテ古ハ一戸トニ租
庸調、ニツリ田租ハニツリテ一分ハ公儀ヘ上ケ一分ハ封戸ノ
主ヘ給セラルル封戸ノ子弟仕丁モソノ主ヘ給フナリ

凡ノ封戸ハ親王凡四段諸臣正一位ヨリ從三位職ニテハ
太政大臣ヨリ參議マテイッレモ之アリ内親王ハ減半ナ
リ太上天皇ハ二千戸ト云リ

符牌勘合事 有隨身英符有鐸鈴
傳符有関契有過所

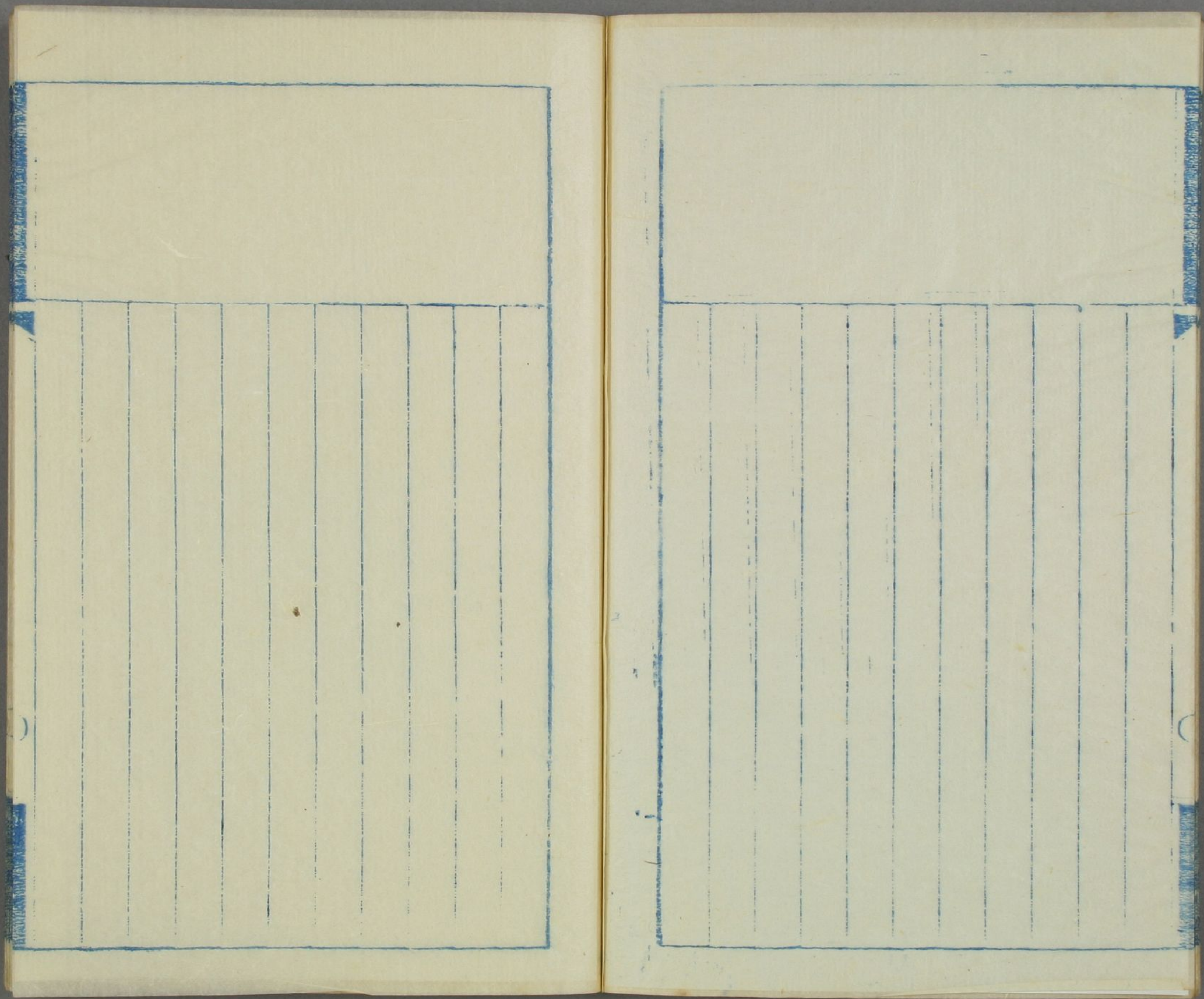
本朝英符ノ制金英袋銀英袋差別アリ英符袋ヲ
金又ハ銀ニテ飾ルナリ全ク唐ノ制ニヨルトミヘタリ百官五品
以上別段ニ召サルトキソノ使ト合ヌワリフナリ驛鈴傳符
ハコレモ唐ノ制ニナラヒテ京都ヨリ諸國ヘ上リ下ルル儀
ヨリ給フ道中ノ人馬宿次ノ切手ニルニナリ驛鈴ハハニル
驛路ノ鈴ナリ太政官式ノ内ニ右三通請内印并驛鈴
一口傳符一枚トアリ関契ハ關所ヲ通ルルキノ割符ナリ
通ルルコトヲ合セテ相違ナキヲルナリ又木契トモ云過所
ハ關所ヲ通ルルキ形證文ナリ式令ニ詳ナリ

符牌勘合

令云親王及大納言以上並中務少輔五衛佐以上並給隨身
符左二右右符隨身左符進內其隨身者仍以袋盛若
在家非時別勅追喚者勅符同然後承用其左符勅
訖封印付使

勅符ト云ハ符牒ノ類ナリ唐ノ時ヨリテ辭アレバ物ニ名付テ
ルハ後世ノコトナリ居家必用辛某云勅合即古之符契也
ト明ノ時四夷ハ遣ス勅合ハソノ國ノ名ヲ字ツシルトス
永樂ノ時ニ日本ハ勅合百道ヲ送リ國ノ鎮山ヲ封シ壽
安鎮國山ト云

宣宗ノ宣德八年陸月本朝ニテ後花園院永享五年癸
丑勝定院義教公ノ時永樂年号本字ノ勅合五十二通
同シテ日字ノ勂合一百通並ニ底簿一扇ヲ明朝ハカ
ヘス又享泰五年ニ本朝ノ使僧允澎等明ニ入リ勂合一
百道底簿一扇ヲ齎シ回ス



以下

6 丁

白紙

神皇正統記 淳和ヨリ後村上ニ至ル

○ 淳和帝 天長元年授歸化新羅百六十五人田为口分田賜穀種及農具。令大学寮学士討論于紫宸殿。後为例数百年不絶

○ 仁明帝 我國ノ盛ナリシハ此コロヤリケン遣唐使モ帝ニアリ歸朝ノケ建礼門前彼國ノ宝物ヲ帝ヲタテ、群臣ニタマハスルイモアリキ律令ハ文武ノ御代ヨリ定ラシカト此代ニゾエラヒトノヘラシタリ
○ 清和帝 九才ニシテ位ニ即ノ外祖藤原良房攝政セラル昔神功應神ノ為ニ攝政シニ厩戸皇子推古ノタメニ攝政ニ齋明ノ時ソノ子中大兄ノ皇太子攝政シ玉フ、元明ノ時皇女^{持統}淳足^尊攝政セリ然レ其人臣ニテ攝政スルハ良房ニ始マルコノ大臣遠憲アリテヤ子

大政大臣良房 大政大臣信
右大臣良相

孫親族ノ學問ヲス、ノニカニ勸學院ヲ建、立ス、大學寮ニ東西ノ
曹司アリ、管江ノニ家ニツカワトリテ人ヲ教ルトコセナリ
良房ノ大臣撰改セラレヨリカノ一流ニ傳テ絶ヌコトニナリヌ、幼主ノ
時斗アトラホヒコト撰改、関白モ定レル職ニナリヌ、コノ比大納言藤
伴善雄、寔アリテ大臣ヲ望ム心アリ、時ニ三公、嗣ナシ信ノ左大臣ヲ矢テ
其嗣ニ臨ミ任セント計リ、后天門ヲ燒キテ左大臣セラシメ、ガランボト後
奏ス、帝右大臣ニ命シテ誅スヘキニナリ、太政大臣ニテ、関キ、警ヲ家
ニルアマリ、鳥帽子直衣ヲ着ナカラ、白晝騎馬馳卷シテ申ナタム、
後善雄ガ陰謀アラハレ流刑ニ處セラル、大臣ノ忠節ハ此ニ、帝後
ニ家慈覺ノ弟子ニテ灌頂ス
陽成帝 基經撰改、天皇性惡不堪、人主器、令猴狗飼、聚

姓令蛇吞之、觀之、基經年諸大臣謀逆、廢之

光孝帝 改元踐祚、初撰改ヲ改テ、関白トス、コト我朝、関白ノ

初、リ漢官光撰改タリシガ、宣帝、時改ラカヘ、方檄ノイナナ光ニ

関白セシヨトアリ、ソノ若ヲ取テ、若リコノ代ヲリ、藤氏ノ撰録ノ家

ニ他流ニウツラス

宇多帝 基經関白タリ在位十年、ニテ出家、此時三十三ナリ

寛平元年、皇曾孫高望ニ子姓ヲ玉フ、四年、勅管原道直、大

撰類聚、国史ヲ撰、漢管原道直、真為遣唐大使、道直上書

請、出旅之至、皇始、能遣、習使

醍醐帝 左大臣、于時、于右大臣、管原道直、奏決改事、三年、貶

道真為太宰、推師法皇、例之、驚歎、曰、右大臣、迷德、並、高

宜專依任時平御嬖之、与仁明皇子計讒構成禍逆及之、
先是文章博士三善清行奉書右府諫以罷相恐为小
人忌害。太上天皇曰法皇此号始此。国家無事、民庶安堵、世
以比仁德帝後之言治者皆称延喜

○ 朱雀帝 稟質薄弱常養深室、天慶三年卒、将門叛
将門上総介高望カ孫アリ使宣使ヲ望申ケル不許ナルニヨリ怒テ
之ニ及ツト云先ッ伯父常陸国ノ大掾国喬ヲ攻メ殺シ下総ノ相馬
郡ニ居所ヲ占メリ參議民部丞右衛門督子忠文朝臣ヲ大将
軍トシ源經基藤原仲舒ヲ副将軍トシテ差遣ケル。ス十員盛
秀卿等先滅之、小野好古ヲシテ純友ヲ征セシム天下ニ子リ
村上帝 帝聖明、内侍所焼矢シ神鏡灰中ヨリ出山規損スル

ナレト昔ヨリ源氏オホカリシカトモコノ御末ニシテ今ニ至ルマデ大臣以
上ニ至リテ相續キ侍ル源氏ト云コトハ嵯峨ノ御門ノ榮ヲヲホシメテ
皇子白王孫ニ姓ヲ賜テ人臣トナシ玉フ

○ 冷泉帝 コノ御門ヨリ天皇ノ号ヲ申サスマノ字ヲヨリ後諡ヲ奉テ
不遺詔アリテ国忌ニ陵ヲ置ケルコトハ君父ノ尊キ道ナレド尊号ヲ止
メテハ臣子ノ義ニ非ズ神武以来ノ御号ニ皆後代ノ定メテリ持統
元明ヨリコノカク遜位或ハ出家ノ君モ諡ヲ奉ル天皇トシニコソ申スレ
中古ノ先賢ノ教ヲシレニ得テ事ヲ待ルアリ

○ 醍醐帝

○ 天智帝

○ 一條院 慈仁为心寒夜寄服衣而方今天寒想先民無衣朕

蓋忍独重藝乎好學崇文詞藻過人又妙釋竹。帝臨御
日久之時人才輩出源經信藤原公任源俊賢藤原行成以才
藝稱世和綱言而當時和綱之秀有紫式部清少納言
赤染衛門和泉式部伊勢大輔之流帝每曰朕之不德
唯得人事庶不愧足堯天曆之世。

三條院

後一條院

後朱雀院

後冷泉院

討也以前後十二年

後三條帝 延久九年置記錄所帝親聽政、性剛明自在諸王

時每嘆臣強君弱居東宮凡三年好學脩德定習國家故事
常切齒及即位每事裁抑時和聖主仰望中興以源師房
為右大臣尋用大江匡房二人皆和賢才、公于賞罰可比
永和延喜

○ 後白河帝 白河法勝寺ヲタテ九重塔婆ナトモ昔ノ御親、

寺ウニエ(例ナシ、造作ノ多諸國ノ重任ナトモク受領ノ功課モ

止ラス國ノ費多シ在位十四年太子ニ位ヲ讓リ世ノ政ヲ始テ院中

ニテ知ヒ玉フ出家、後ニ其マニテ一期ヲスルニ玉フ、ナリ居ニテ

世ヲ知ラヒ玉フナリ昔ナシ、御子堀河院、御孫鳥羽、御曾孫

崇徳ノ帝在位マシ五十七年世ヲ知ヒ玉フ。院中ノ礼ナト云フ此

ニ始ルノ帝曰天下無不用朕命者惟不如意者鴨河水、變

陸米、山法師而已。帝深信仙教、屢幸法勝寺、使僧誦經、
教遭兩停之、帝怒以為兩有罪、乃盛兩下獄、時人謂之曰囚
兩。建仙塔不可勝教、上甚好色、亂禮經、後世以為保元之
亂、實兆於此、實討黜陟、莫不與聞、凡以宣院号、令天下
始于此

鳥羽帝 キラ好マロ玉ヒケルニヤ 裝束ノコハリ鳥帽子ノコト

ヒナドエト此比ニ始ル、コレモ院中ニテ廿四年其間ニ御出家アリシカ
ト世ヲ知ラヒ玉フ、院中ノフルキ例シニハ白川鳥羽ニ代ト申シ待ル
青山延子曰白川君徳有欠、遂使鳥羽不慈其子而崇徳不孝
其父ニ綱索而五倫廢保元之乱、已胎胎于此也

崇徳院 上皇ト御中ラヒコ、ロヨカラテ退マ玉ヒキ保元ニ事

アリテ御出家アリシガ讚岐ノ國ニ遷カレ玉フ

近衛院 藤原得子美福門ノ子ナリ 山縣禎曰崇徳帝高

春秋未嘗有失徳而遽奪之位、近衛帝生而三歳未为天
下ニ父母而立為天下上皇、實溺私愛而背父子之道、忘社
稷之重人欲肆而天理滅、英國欲不亂得乎

後白河院 崇徳ノ御子重仁ノ親王ツカセ玉フヘカリシニ本ヨリ

御中ラヒコ、ロヨカラテ止マ上皇思召ワラヒケレバコ、御ハシセ玉
フ五太子ミナリテスガニ居サセ玉フ今ハ此御末ノニコリ継躰シ玉ヘ
レルベキ天命ト覺ヘ待ル、左大臣頼長天下ヲ我終ニト謀ル
ケルニヤ崇徳ノ上皇ヲ申進マテ世ヲ乱ラル父ノ法皇晏駕ノ後セケル
ハカリヤアリケン忠孝ノ道カケニケルガ如ク見ヒタリ法皇孫ノ此事

アランノヲ奉セラシテ清盛源義朝等ニシテ仰セテ内裏ヲ守リ奉ルヘ
キヨレ勅命アリキゾ、頼長流失ニヨリテ死ス、上皇主髪ヲ削
ルニ未究セシテ護岐ニ流サル、為義誅セラル、天下ヲ治メ玉フ三年太
子ニ讓リテ創メ如リ尊号アリテ院中ニテ天下ヲ知セ玉フコト三十年
其間ニ御出家アリシガト政務ハカハス身内兩代、如シ〇先帝
崩服膚未寒以甲兵爭宝祚當是時忠通与頼長兄弟相軋
为義与義朝父子相角、清盛与忠正叔姪相攻暴乱如
此神武以降千八百年未嘗之有也(永井定宗)

〇
二條院 右衛門督藤原信賴ト云人マリ上皇特、ミラ信尼ミ
玉ヘ朝廷、大事ニミ与ラセ玉ヘリカ、信賴驕慢頼長ヲ
近衛ノ大将ヲ望マリ通憲法師ノ諫ニヨリテ止マリ、時源義

朝、臣ノ清盛朝臣ニ抑ヘラレ根ヲ含メリケルヲ相談セテ殺逆
ヲ止ケリ保九ノ乱ニハ義朝カ功高ク待リケレド清盛ハ通憲法師カ
縁者ニナリテ殊ノ外ニ世意ハ通憲清盛等ヲ失ハントテ諱ル偶ニ
清盛熊野ニ行リ乃ケテ登ス、上皇ヲ三條殿ニ囲ム火ヲ縱テ之ヲ
燒リ、清盛重盛等之ヲ伐リ、信賴誅セラル、義朝東国ニ去ル尾
張ニ至リ人ノ為ニ殺サレ、子氏権漸リ盛ナリ

〇
六條院

高倉院 上皇天下ヲ知セ玉フコト元、如シ清盛ノ権ヲ專ニセシメ、殊
更ニコノ御代ノコトナリ其女徳子入内シテ女御トス即立后アリキ、重盛
死シテ後清盛怠驕慢、時、執柄ニテ菩提院、瑛白基房、
大臣太宰権帥ニ配流セラル、妙音院ノ師長ニ京中ヲ出サシ

頼朝以仁王、密告ヲ以テ東國ニ義兵ヲ奉リ

安徳帝 清盛大臣クテ 帝并ヒニ上皇法白王ニ勸メテ

都ヲ摂津福原ニ移カントス事止ヌ 清盛卒後宗盛之ニ嗣テ

内大臣ヲ犯ス 東國ノ軍益熾ニメ卒以屋利イテハ 法白王比叡山

ニ隠シ 卒時子帝ヲ抱テ海ニ投ス

後鳥羽帝 内侍所神蓋ハ全シ宝釵ハ失セヌ

源義仲ヲ征弟大將軍ニ拜スコノ官ハ昔坂上ノ田村丸マダ東弟征伐

ハ為ニ任セラレキ其後將ヲカ乱ニ右衛門督忠文ノ朝臣征弟將軍

ヲ逆テ即刀ヲ賜シヨリ再來久シク絶テ任セヌ義仲ハ始テナリケル

源義仲在京師暴橫掠法皇莊園之 源頼朝使其弟義頼

義経將兵討義仲大破之義仲伏誅 頼朝勲功高ケル自

ラ推ラ奉ニス、王家ノ権愈ニ衰、諸國ニ守護ヲ置テ國司ノ威ヲ

抑ヘシカハ吏務ト云トト名計ニナリスアラユル莊園卿保ニ地頭ヲ

補セシカハ本所ハナキガ如ニナレリキ

先帝持具三種神器故踐祚之時幸食物宝釵没海不見伊勢神

宮之告奉新釵、宝釵改鑄崇神ノ代、井上天徳中逢火田規不換

後朱查長久中逢火出於灰灰中、傳之千代、宝釵ニ体蔽

雲釵安藝田、沈西海者於崇神ノ時改作者也、以西種自

昔ニ体不替、宝鏡ハ坂瓊曲玉浮出海中也、人或曰上古之神

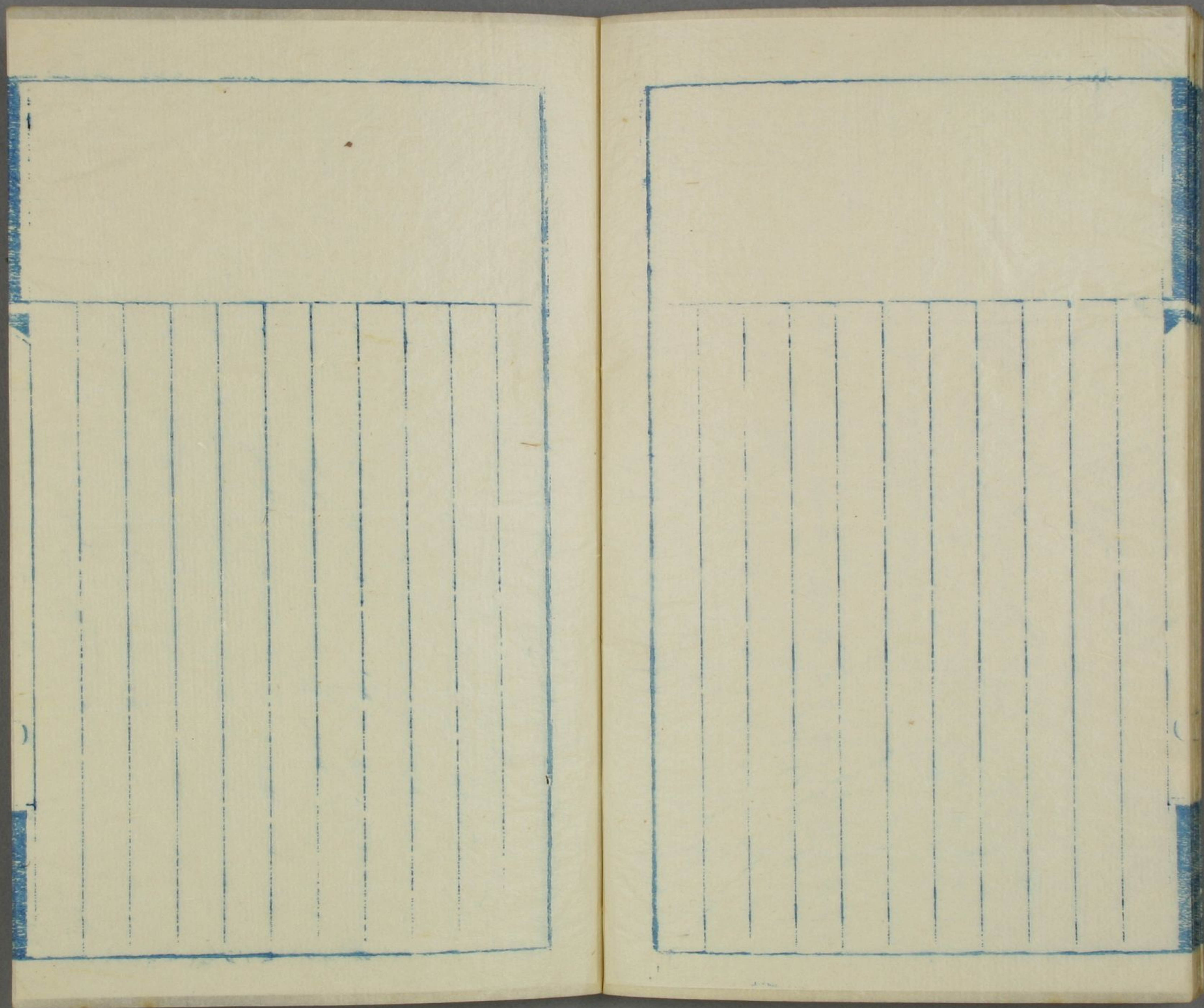
鏡者失于天徳長久之火、草薙宝釵沈于海宝水也、

廢帝 順徳ノ太子順徳讓位アリテ合戦ノヲ行ハト云即

位珍増モテ軍敗レ神器ヲ内裏ニシテオカレキ懐任後七十
セテリ帝ノ口詞ニ教ヘス

○ 後嵯峨 順徳佐返ニテリ具子ヲマツ都ニテリ根政道宗外家
ナレバコノ御流ヲ天位ニ即シメテラ鐘倉ニ報マレテ恭時肯ズル
コノ帝ヲ立ツ、天年アリ正理ナリ土御門ニ兄ナレバナリ

○ 後深草 具子アリト云反位ヲ弟龜山ニ傳、始後嵯峨道祖
龜山ニ統ラ傳ユ



以下
3丁
白紙

紫綬金章不足稱聖君一忠忽矣
涯 臨后山

The right page of the notebook is ruled with vertical lines. It features a header section at the top, followed by a grid of 11 vertical columns. The lines are drawn in blue ink. The grid is currently empty, suggesting it is a ledger or account book page.

明治十一年一月以降